



發行所
藤沢市昭道319
區立湘南高等学校内
湘友会
電話藤沢2149
郵便口用種別4477
編輯兼發行所
久保川久作

赤木先生壽像完成

きょう除幕式挙行

湘南中学創立以来二十七年の間、文字通りその半生を湘南の為に
尽くされた初代校長赤木愛太郎先生の御偉業を讃える胸像が、
湘友会の手により建立せられ、いよいよ今日その除幕式を迎え、
先生の像は永遠に緑ヶ丘に輝やく事となった。

撰文

赤木愛太郎先生は明治六年九月岡山県阿哲郡本郷村に生まれ
身を育英に捧ぐ大正十二年三月神奈川県立湘南中学校の創立
を見るや迎えられて初代校長となりその任に在ること二十七
年辛苦經營克く天下の優秀校たらしめて昭和二十三年一月勇
退せらる我が湘南高等学校の基礎は実に此の間に成れり先生
既に八十の栄寿を得て尚豊録たり其の徳を慕い恩愛を謝する
我等茲に相寄り此の像を建つ

昭利二十九年二月 湘友会

記念像記

会長天野武一

赤木老先生の記念像がいよいよ母校の庭に建つ 想えば一昨年九月、湘友会総会の席上で旧師塚本茂画伯が情熱こめて披
瀝せられた着想が、ようやくしてこのような形でこのような時期に実を結んだということになる この塚本発言は、はじ
め満場の支持を得たと申すものの、計画遂行途上においては卒直に云っていくたびか具体的な問題をめぐる悲観的な思惑
が行われ、その実現までに思わざる時日の経過を余儀ながらしめてしまった。しかし釀金運動は地域的な厚薄の差を目立た
させながらも根強く間断なしにつづけられ、特に去る八月二日の湘友会総会においてはあらためて諸種の角度から論議を交
わし、結局、出席会員の総意としてこの趣旨を一層全会員に徹底せしめ速に像の作製に着手すべきことが確認された。すな
わち、第一にいかにして募金に成功するか、第二にいかなる彫刻家に製作を依頼するか、この二つの課題が私どもに与えら
れたのである。その後私どもは、幾度かの会合を重ね一喜一憂の中にも幸にして会員諸氏の御理解と有志各位の特別な御努
力を得てついに募金成績の尻上がり的好調に恵まれるとともに、堀進一先生の如き当代有数の彫刻家を煩わして見事な作品
に仕上げていただくことができ、顧みていささかの感慨無きを得ない。会員有志につながる各回の会員の御協力、更に堀先
生をお世話下さった塚本先生の御配慮、湘南高校の先生方の御援助に対しては心からなる敬意と謝意とを表する次第である。
堀進一氏は大正九年の帝展以来文展日展の審査員を続けられ、現に日展参事、都美術館参事、東京工大講師を兼ねられる



除幕式次第

- 一、開会の辞
- 一、会長挨拶
- 一、胸像除幕
- 一、花環贈呈
- 一、記念品贈呈
- 一、赤木先生挨拶
- 一、堀先生挨拶
- 一、閉会の辞

(式終了後 藤沢駅前角若松にて祝宴を開く予定)

昭和二十九年二月十四日 発行

この老大家のことは今更記すまでもなからう。先生の手になる多くの著名人の銅像はつとに人の知るところであつて、この湘南の地にこの名家の作品が加えられたことはその意味でも尊いと思ふ。しかも私どもは、この老大家にぶしつけなお願いを敢えてし、大変な御無理をおかけした。今回の先生の御厚意は、幾重にも会員諸氏の御認識を願いたいところである。

さて赤木先生は明治六年九月十四日生、明治二十六年岡山県師範学校を卒業、更に東京高等師範学校を卒え、鳥取県米子中学、沖繩・山形両師範学校の教諭を歴任し、大正十年三月五日新潟県長岡女子師範の校長より新設の湘南中学校校長となられ、爾来二十有七年にわたり辛苦母校の経営に当られ、昭和二十三年一月二十二日勇退、現に日本大学の顧問であられる。

かつて本県の教育会は、赤木先生御在職中その功を賞して『君資性明敏思慮周密ニシテ実行力旺盛常ニ二学校経営ノ大木ヲ愛ノ一点ニ置クヲ以テ父兄ノ信頼、職員生徒ノ思慕甚ク厚ク且君ノ高遠ナル理想ト豊富ナル経験ハ同校ノ教育ヲシテ我国中学校教育界ノ指標ト仰ガシムニ到ル』とし、『ソノ適正ナル識見ハ常ニ二邦家教育界ニ重キヲナシ』、『教育界ノ至宝ト云ハル』と述べた私は、これ以上に云うべき辞を知らない。もとより先生は、力強い実践家に見られる性格の常として独自の策を用いられもしたし、積極的な工作も講ぜられた。従つて人あるいは反発を感じる場合があつたことである。しかし先生が御在職中、堅忍持久の標語の下に尽くされた母校育成の努力はまことに目覚ましい限りであつてその気力はただ敬服の外はなかつた。この尽きざる師恩を想ひ、八十路の御栄寿を慶び奉る歡え子達の胸は、先生の像を母校の庭に仰ぐ嬉しさにあふれている。

今や、赤木先生の像は立つ。この挙成るに當つては、かつての湘南中学の先生方からも、湘南高校職員、PTAや在校生諸君からも、多額の御寄付をいただいた。わが湘友会は、この赤木先生像を懐かしの母校に寄贈して美しき永遠の記念とするものである。

功績を顕彰せん PTA会長 遠藤賢次

赤木愛太郎先生には過去五十有余年の永きにわたつて職を教育の道に奉ぜられその御功績の甚大なことは今更申すまでもないところであります。殊にわが湘南中・高校に於ては創立以来三十年教育のあらゆる面に献身的な御尽力をなされ本校をして今日あらしめるに至つた事はわれわれの等しく感謝の言葉を尽し得ないところであります。今や先生の薫陶下にあつた三千数百にのぼる卒業生諸氏の感激は先生の胸像建設の計画となり、この度除幕式をあげる運びとなりました。まことに御同慶の至りに堪えません。この功なつて赤木先生のお喜びは撫かしく思われますが、それにつけても終始この計画に万難を排して努力を惜しまなかつた卒業生發起人並に関係諸氏の御苦勞に対し深く感謝するものであります。庶幾くば今後益々湘南高校の発展を図り以て先生の本校における不滅の御功績を永く顕彰せんことを。聊か感懐を述べて御祝の言葉いたします。

美しい企てに感謝 学校長 松川昇太郎

二年前頃から赤木先生の胸像建設の話がチラホラ伝わっていたが、今日愈々除幕式といふことになった。誠に慶賀の至りである。この間湘友会員は多忙な社会人の身で、一度胸像建設のこととなると各地域から参集されて、想をこらし、議をねり、散んじて、実践に移り、誠につるわしい光景を現出された。塚本先生がいつの会にも出席して、製作者堀進二先生との連終に当られ、情熱的助言を与えられた。在校生もまた如何にしてこの有意義な事業に参与出来るかと幾度か生徒委員会を開いていた。現・旧職員からも熱心な応援が舞い込んだ。この時機に廻り合せて、私が再度湘南校に勤務していることを本当に有難いことと思つている今の時勢に「美しい企が見られる」といふことは、結局、一代の師表としての赤木先生の御人格と生徒に対するきびしい愛情のしからしむるところであり、先生が形式的な栄達に眼もくれず、ひたすら湘南校の教育に献身され、成果を挙げられたかを如実に物語るものである。

今、校庭に先生の胸像を仰ぎ見る時、これは知恵と勇氣と愛の根源として、本校の毎日のいとなみにどんなにか大きな力となるかを想つ時、改めてこの美しい仕事に敬意と感謝を捧げ、そして先生の御健在をこゝとほぐ次第である。

伝統を守らん

生徒会副会長 露木 実

今度湘友会のみなさんの御努力によつて、赤木先生の胸像が除幕の運びになりましたことはわたしたち在校生と致しましてもこの上ない喜びであります。私達は直接にお教えは受けませんでしたでしたが先生の御高德は今も私達の毎日に生きていることと信じこれを機会に私達は母校の良き伝統を守りこれを一層輝かしきものにするために全力を尽す決意を新たにしますのであります。

又卒業生諸兄姉に於かれましては母校と常に密接に協力され、私達後輩を一層御鞭撻下さいますよう併せて御願ひする次第であります。

定時制生徒会委員長 小林完吾

私達は歴史上に傑出した偉人を学ぶ如く時代をへだてた感じで赤木先生を知つて居ります。私達が湘南高校生である事を誇りとする時常に先生の優れた功績を偲んで居りました。しかし私たち定時制生徒は直接先生にお会いする機会に恵まれて居りませんでしたので、今度、先生の胸像建立により、眼のあたりに先生の風貌に接し得、真に親しく先生を知り尊敬し得る喜びを得て、心から喜んで居ります。

除幕式に臨みて御挨拶 赤木愛太郎

ここに關係各位の御尽力によつて私の胸像が出来上りました。本人の私は徳、業ともに胸像建設にふさわしいものとは存じませんが、皆様の協同一致のおはたらきと、堀先生のすぐれた御技術とを想起してお受けした次第であります。将来この胸像をこらんになつて同窓生諸君は、諸君の力を結集すれば大抵の事は出来るといふことを処世の訓として下さい。

なほ、本人の私はものの数にも足らぬものではありませんが、堀先生という美術家の先生のしかも御義侠によつてこの胸像が出来たのだといふことを感謝いたします。

壽像除幕に際して 洋画家 塚本 茂

湘南中学並びに高校卒業生六千有余諸兄に依り母校校庭に初代校長赤木愛太郎先生の壽像建設が愈実現すると云ふ目出度き除幕式挙行の佳日を前にして卒業生ならぬ私の感懐は浅いものではない。

校齡僅か三十数年にして既に天下の湘南として自他共に其の魅力的名声を許し今日有難く之を戴けると云ふその由来の根元を想い創立より今日迄に築かれた本校の伝統歴史の尊嚴である祖先の偉業を忍び之の心を誇ある本校の歴史と共に今日あらしめた恩師赤木先生の徳を芸術作品として象徴し永久に記念として之を幾多後進に伝えんとする此の時に当りこの製作を御引き受け下さつた堀進二先生の払われた前例なき犠牲と御苦勞を皆様と共に感謝致し度い。と同時に蓋し此の建設は卒業生諸君でなくては又兄等のみの成し遂げられる仕事でありこの記念像の中には三十数年間先生と共々優れた職員と各界卒業の兄等の優れた御両親方並び兄等自身が永年かかつて築き上げ勝ち取られた合作の歴史をも含めた表象でもあり之に将来幾千の優れた後進が又良き歴史を築き足すであらう一系の歴史の連りを約束する記念塔でもあると想えばこそこの建設に多大の御努力を致された御關係の皆様と共に満腔の祝福をささげ幾重母校の彌栄に資するあらん事を祈り期待する切なるものあり。

昭和二十九年一月二五日

元湘南中学校教諭(図画)

募金協力を謝す

藤沢支部長 増田彌太郎

神明の森近く緑の丘に本校が創立せられてより早や三十余年の歳月が流れ現在の基盤を築いた初代赤木校長二十七年間の努力は今日の大湘南高校の繁栄をもたらしたと申しても敢えて過言ではないと思えます。この程出来上がったプロマイドを見て老先生のひたいの皺には三十年の歩みの苦心さがまざまざと刻みこまれている感を強くします。先生の蔭かれた種は今や五千の卒業生と千二百の在校生の中にすくくと伸び大きな花を咲かせています。

今迄の募金の概略を申し上げますと、昨年八月二日現で十一万八千円が、本年二月十五日には五十二万九千円に上昇して居ります。これ一重に各支部会員の絶大なる御協力の賜と厚く御礼申し上げます。しかし連絡の不十分住所の変更趣旨の不徹底など全会員の御協力には未だしの感が致しますが、目出度く目標額に達しましたので茲に除幕式の運びになった次第で御座います。

母校より

活発なクラブ活動

各クラブの活動は昔日に劣らず活発である。先ず運動部の活動では、硬式野球部が昨秋の関東大会に一昨春に続き二度目の優勝を遂げ今春の選抜大会に四年振りで甲子園の土を踏む事が確実視されている事と、新鋭フェンシング部が昨年に引き続いて団体に出場健闘よく四位入賞し、陸上競技部が県下を制覇した事等が特筆され、他に排球・相撲は県下優勝、蹴球・軟式野球は二位に、籠球・体操は三位に夫々県下で入賞している。その他の各部共、今後一層の活躍が期待されている。又文化部では新聞部が全国コンクールで優秀賞を得、美術・書道・写真等が各展覧会に入賞した事等の外いずれも地味ではあるが着実な歩みをしている。これが昭和二十八年年度のクラブ活動概観であり、先輩各位の御協力が深く感謝される。



県下制覇の陸上競技部



関東大会優勝の硬式野球部

赤木先生寿像設立寄附金収支決算報告(昭 29.1.31 現在)

収入合計	577,757 円	
内訳	446,730	卒業生
	65,600	特別寄付
	65,427	団体
支出合計	442,898 円	
内訳	400,000	壽像製作費
	22,058	通信費(葉書 850 枚。趣意書発送料 976 通。除幕式招待用葉書 1000 枚。)
	6,300	印刷費(趣意書 1500 枚。招待用葉書 1000 枚。)
	4,650	製作者車馬費、接待費、各地区連絡旅費。
	3,840	鎌倉地区アルバイト代 2,440 円。
	2,620	大磯地区事務連絡費 1,400 円。
	500	振替手数料(86 件分)
	300	事務員、小使謝礼
	2,630	奉加帳、帳簿、糊
残高	134,859 円	地鎮祭費用(神官謝礼。清酒。神。供物)
		但し残額は除幕式典諸費用に充当予定。



昨年八月九日より西独ドルトムントで開かれた第三回国際大学スポーツ大会に、本会会員小田島三之助君他二名が蹴球選手として参加し各地で活躍したが以下は小田島君の「西ドイツみやげ話」である。

ドイツの或る炭鉱町に大会前に調子を調える為に選手団全員が各家庭に一人づつ分宿した時の珍談を一つ。
日本人は自分達の同志であると大変に歓迎して呉れるが、一番困ったのは矢張り言葉の通じない事である。

その中でH君の泊った家の出来事。日本人を歓迎する為にH君の家の主人が彼に向って何やらドイツ語で聞き始めた。「ミルクとライス」という言葉だけがやつと解ったので食べ物の話だなと思つた彼は良いかげんに返事をしておいた所さあ大変！夕食になつた食卓の上を見たら米がミルクで煮てある上に砂糖をかけてある。日本人は米が好きだからと、どんどん食べさせられて翌朝青い顔をしていた。良く聞いて見ると、主人はH君に「めしのたき方」を聞いたらしい。「ミルクでたぐのか」の問がドイツ語なので彼は解らず、ただ「イエス」と言ってしまったとか。言葉の通じないと云う悲劇の一つだが、当時の彼には笑い事ではなかつたらしい。(珍行記より)

会則一部変更

湘友會会則の一部を次のように変更決定した。

第四条(役員)本会に左の役員を置く、会長一名、二、副会長「二名」とあるを「若干名」に、三、幹事若干名「内四名を会計事務幹事とする」を「内二名を会計事務、二名を会計監査」に、
策九条正会員は入会の際に入会金として「百円」を納付するところを「五百円」に、毎年会費として「五十円」を「百円」に。尚会計年度も毎年八月一日に始まり翌年の八月三十一日に終わるに改められた。

湘友会役員

昨年八月二日の総会で左の諸氏が選出された。

会長

天野武一

副会長

増岡彌太郎 (藤沢支部)
小串伸夫 (横浜支部)
猪俣一雄 (東京支部)
松岡正二 (鎌倉支部)
木村文雄 (茅ヶ崎支部)
杉山昌巳 (平塚支部)
郷土立夫 (大磯支部)
秦野応助 (湘北支部)
副会長は地区の支部長とし、会員の相互連絡にあたる。

編輯室

御寄稿の皆様は厚く御礼申し上げます。経費其の他の関係で「このような会報になってしまった」とをお詫びいたします。会員諸兄の常に変わらぬ御協力を感謝し湘友会のより大いなる発展をひたすら祈ります。